

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1-31	令和7年度第1回すみだ食育推進会議	
開催日時	令和7年5月30日(金)午後1時30分から午後3時まで		
開催場所	すみだ保健子育て総合センター 3階 会議室301		
出席者 (敬称略)	【委員】秋田昌子、原寛道、羽原隆、大久保勝久、大西雅之、佐伯信郎、 田口武司、高橋幸恵、本多秀行、前田恵子、 須藤浩司(保健衛生部次長) 【事務局】健康推進課長、健康推進課地域保健担当主査、栄養士		
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 会議録の公開	傍聴者数	なし
議題	1 保健衛生部 次長 あいさつ 2 報告 (1)令和6年度 区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業実績 (2)令和7年度 食育推進事業について 3 議事 (1)すみだ食育フェス2025について (2)こども商店街について (3)令和7年度の「定性的な評価」の検討について (4)その他 4 その他(情報交換など) 5 今後の予定		
配付資料	<配布資料> 資料1 令和7年度 すみだ食育推進会議委員名簿 資料2 令和6年度 区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業実績 資料3 令和7年度食育推進事業(予定)について 資料4- すみだ食育フェス2025について 資料4- すみだ食育フェス2025 出展団体一覧 資料5 こども商店街 資料6- 令和7年度の「定性的な評価」の検討について 資料6- 定性的な評価独自モデルのプロトタイプの「仮説」 資料7 ご意見・ご質問シート 参考 すみだ食育推進会議に関する要綱 参考 「第20回食育推進全国大会 in TOKUSHIMA」チラシ 参考 「すみだ食育フェス2025」チラシ		

会 議 録	<p><b>1 . 開会</b></p> <p>事務局</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから令和7年度「第1回すみだ食育推進会議」を開催させていただきます。私は今年度から健康推進課長に着任いたしました荒井と申します。よろしくお願いいたします。本日司会をさせていただきます。</p> <p>この会議につきましては、「審議会等の会議の公開に関する基準」に基づき、会議の公開及び議事録の公表を行うことになっております。予めご了承くださいと思います。</p> <p>本日は、傍聴者はありません。</p> <p>それでは初めに、保健衛生部次長の須藤からご挨拶申し上げます。</p> <p>須藤次長</p> <p>皆様こんにちは。保健衛生部部長の須藤でございます。日頃より区の食育事業にご協力賜りまして厚く御礼申し上げます。今日の会議は、昨年度の実績報告や今年度の取組み等盛り沢山でございますので、効率的にやっていきたいと思っておりますけれども、皆様の忌憚のない意見をいただきながら、前進していければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございます。本日は、米倉委員、河上委員、平田委員がご都合により欠席です。佐伯委員につきましては、先ほどご連絡があり少し遅れるとのことでした。また、羽原委員は、午後2時30分頃までのご出席と伺っております。</p> <p>それでは配布資料についてご説明します。</p> <p>- 次第に基づき、配布資料の確認 -</p> <p><b>2 . 報告</b></p> <p>事務局より、資料2～3に基づき説明</p> <p>(1) 令和6年度 区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業実績</p> <p>(2) 令和7年度 食育推進事業について</p> <p>報告を受けて、各委員よりご意見、ご感想をお伺いした。</p> <p><b>3 . 議事</b></p> <p>事務局より資料4～6に基づき説明</p> <p>(1) 「すみだ食育フェス2025」について</p> <p><u>ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。</u></p> <p>(2) こども商店街について</p> <p><u>ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。</u></p> <p>(3) 令和7年度の「定性的な評価」の検討について</p> <p><u>ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。</u></p> <p>(4) その他</p> <p><u>ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。</u></p> <p>-----以下、意見交換の概要-----</p> <p>事務局</p> <p>それでは資料2をご覧ください。令和6年度の区とすみだ食育 good ネットの食育推進事</p>
-------	---

業の2月以降の実績について、ご報告をさせていただきます。

こちらの資料につきましては、昨年度は区とすみだ食育 good ネットの実績を別々に作成していましたが、河上委員から量も多く見づらいつのご指摘をいただいておりますので、令和6年度の両者の事業全てを合わせた資料とさせていただきます。

それでは、昨年度の第2回の会議以降の区の実績とすみだ食育 good ネットの実績を報告させていただきます。区の実績としましては、年度末ということも含め3月末にすみだ食育推進リーダーの情報交換会を行いました。すみだ食育 good ネットの実績としましては、2月以降継続しまして「野菜を育ててみよう！」というプロジェクトと「牧場オンラインツアー」を開催したという形で主にこの辺りが実績となっております。以上で資料2の説明を終わらせていただきます。

続きまして資料3を説明させていただきます。令和7年度の食育推進事業の予定です。

まず1番、食育推進全国大会 in TOKUSHIMA です。今年は徳島で開催されるということで、日にちとしましては、6月の7、8日となっております。昨年度に引き続きまして、芽室町とすみだ食育 good ネットと墨田区の3者合同にて出展を予定しております。

続きまして2番、「すみだ食育フェス2025」です。6月の食育月間における普及イベントという形で、期間は6月18日～22日を予定しております。場所は区役所の1階アトリウム外という形になっております。内容としましては、パネル展示、講演会、講習会、地域イベントなどを予定しております。こちらは議事にもなっておりますので詳細は後程説明いたします。

3番、こども商店街です。「こども」と「商店」とのつながりをつくることを目的に、子どもたちが地域のお店とつながり「学び・伝え・体験する」食育プログラムとなっております。こちらも議事となっておりますので、詳細後程ご説明いたします。

4番、墨田区食育推進計画評価検討会議です。墨田区食育推進計画における「定性的な評価」の独自モデルの方向性や作成方法等の検討を行う予定です。

5番、「定性的な評価」素材の抽出・検討です。「定性的な評価」の独自モデルの作成に向け、「すみだの食育」の実践知を明確化するため、独自モデルの素材の抽出・検討を行うというところで、9月～11月を予定しております。

続きまして6番、すみだ食育推進リーダーの活動支援についてです。令和5年度に修了した6期生への情報共有の場の提供や活動の支援を行っていく予定です。

7番、災害時食支援ネットワークの構築です。年2回開催し、災害時の食支援に関する検討を行います。今年は8月と12月に予定しております。

続きまして8番、中学3年生の農業体験・漁業体験アンケート調査です。毎年行っていますが令和7年度の調査時期は10月～11月頃を予定しております。

続きまして9番、芽室町との「食」を通じた交流事業です。特別区全国連携プロジェクトの成果を活かし、北海道十勝地域芽室町と「食」を通じた交流事業を行うということで引き続き行う予定です。直近で言いますと、食育フェスの中で6月19日午前10時～11時ですみだ食育 good ネットと墨田区と芽室町と3者合同の協働主催という形で、食で！育む 墨田区×北海道芽室町コラボ企画「大友牧場オンラインツアー」を予定しております。場所は、すみだリバーサイドホール2階イベントホールでございます。芽室町との関係で言いますと、前回の会議で田口委員からご提案がありました、芽室町のジャガイモの種イモを分けてもらえないかというお話につきまして、まだお戻し出来ていなくて大変申し訳ありません。事前のヒアリングの中で、田

口委員から今年のはすでに植えてしまったとお聞きました。間に合わなくて大変申し訳ありませんでした。委員からお聞きしたお話ですが、申し出の趣旨としまして、児童館などでは「野菜を育ててみよう！」プロジェクトをやっていると、そのため子どもたちは芽室町との取組に触れる機会があるけれど、町会の人などはなかなか芽室町と墨田区がつながっていることを知らないのではないかというお話があり、もっと広く知ってもらうためにはそのような活動も大事ではないかというお話をいただきましたので、改めまして事務局からすみだ食育 good ネット或いは児童館が、どのような形で種イモを入手しているのか確認してお伝えさせていただければと思います。

続きまして10番、食育シンポジウムです。NPO 法人幼年教育・子育て支援推進機構が主催、墨田区は後援をしています。毎年開催しているもので、今年度は令和8年2月14日(土)、曳舟文化センターで行われるということで、墨田区は「すみだの食育」について情報発信する予定になっています。食育推進事業につきましては以上です。

秋田委員長

ありがとうございました。事務局からご報告がありました2点と田口委員から事前ヒアリングの中でご意見を承ったということです。田口委員どうもありがとうございました。

芽室町のことで1点添えさせていただきますと、5月24日に種イモと種を送っていただいたので、子どもたちが墨田児童会館の花壇で植えたという報告をいただいております。その種イモ等の入手について事務局と情報交換しながら情報提供させていただければと思います。

それでは2点のご報告を受けまして、委員の皆様からご意見・ご感想がありましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。羽原委員は本日途中退席と伺っています。実は、先日、羽原委員とばったり本屋さんでお会いしまして、食育の本を探しに来られたと話され買いたい本があったということで、その本を教えていただきました。そのことも含めて何かご意見があればと思います。

羽原委員

今、ニュースはお米の騒ぎで盛り上がっていますが、あれは農林水産省だけ、この食育も農林水産省でつながるところがあると思いますが、お米の話を聞いていて作る人と運ぶ人と食べる人というのはまさに食育の話を全部やっているようなもので、それが墨田区も今一生懸命やっていると考えております。食育と思っている人はいないかもしれませんが、啓蒙している時期かと思っております。それでこども商店街が随分大変だったが、こども商店街は子どもが物流の一環を担っているということですけど、最後の消費するところを子どもにもやってもらったりしたらよいと思って、いろいろ探してこの「とびきりおいしい おうちごはん」という本が今人気らしく、女性のクリエイターが作った子ども向けの料理本で、簡単に色々な料理が書いてあって、昔、魚をさばいたりというイベントをやっていたと思いますが、またそういう形のものも進められたらよいと思います。あとは色々なイベントをするときに、こども商店街は、今、曳舟でやっていると思いますが、会場探しも大変なようなので少し横道にそれてしまいますが、今、墨田区で錦糸町まちづくりビジョンというものをやっているみたいで、2040年の錦糸町をつくりましょうというものやっており、町会などが入っていてこういう中に食育のメッセージを入れられたらよいと思います。もし事務局の方でもそういうところでアプローチできたら、ぜひお願いしたいです。

秋田委員長

ありがとうございました。それでは他の委員からご意見・情報等ありますでしょうか。

特にないようですので、次に進めさせていただきます。

続いて次第の3の議事に入らせていただきます。議事については出席委員の過半数の賛成をもって承認となりますのでよろしく願いいたします。事務局から説明していただき、委員の皆様の質疑・ご意見をお伺いしたいと思います。では、事務局から議題1について説明をお願いします。

事務局

「すみだ食育フェス2025」について説明させていただきます。資料の4- と4- をご覧ください。まず目的は、広く区民に食育を普及啓発し、「すみだらしい食育」の推進を図ることを目的に、食育イベントを開催する。今年度も例年通り、食育月間である6月に実施する形となっております。日程は、6月18日～6月22日の5日間を予定しております。地域イベントに関しましては、6月中で予定しています。内容としましては、パネルの展示。これは食育関連団体・企業・大学などの展示と区役所関係所管の展示。あと計画や「定性的な評価」ワークショップ等のご報告もさせていただきます。続きまして、講演会、オンライン講座、地域イベントということで区及び食育関連団体が「食」にまつわる様々な企画を実施ということになっております。詳細は4- の資料になります。例えば講習会・ワークショップとしまして「アニサキス博士になろう」ということで、生活衛生課でアニサキスの講習会を行うことを予定しております。また先ほどもお話しましたが、すみだ食育 good ネット、墨田区、芽室町との3者協働主催ということで、「大友牧場オンラインツアー」を予定しております。新しいところで言いますと、北東京生活クラブ生活協同組合が「どこから来るの？私たちの食べ物」ということで、地産地消を促すような講習会を予定していると聞いています。地域イベントとしまして、今回、千葉大学三輪先生にご協力いただきまして小学生の親子向けの「ハチミツを搾ってみよう！親子採蜜体験会」を千葉大学墨田サテライトキャンパスで6月14日と22日に行うことになっております。各回9組×4回で合計36組を予定しています。別途、今年も千葉大学グリーンズによる、街中植物工場ということで今泉先生が「レタス会」という形でレタスを使ったメニューの提供をしていただきます。八広地域プラザ吾嬬の里とガレージスミダを中心に行う形になっています。その他ヘルパーステーション和翔苑の小谷さんとカフェコハナで「味わって知る、野菜の世界」のイベントも予定されています。またすみだ青空市ヤッチャバでは、通常の開催と6月14日に夜市を予定しています。その他、区役所1階のアトリウムで恒例のベジチェック（野菜摂取量測定）の実施と、明治安田生命による血管年齢測定会の実施ということで集客性のあるイベントも用意しております。周知方法は、6月1日の区報、区のホームページ、X等SNSを使った周知と、チラシとポスター、こちらは区内各所に配っていきます。その他としまして、来場者にアンケートの実施、先着でノベルティをプレゼントします。

事務局からは以上です。

秋田委員長

ありがとうございました。この食育フェスにつきましては本日ご出席している委員のそれぞれの方からも展示又はイベント等で企画をお考えいただいていると伺っております。せっかくの機会ですので、委員の皆様から事務局の報告に重ねて一言いただければと思います。早速ですが高橋委員、地域栄養ネットワークでは毎年取組みをされていますが、今年度はいかがですか。

高橋委員

今年度もすみだ地域栄養ネットワークは参加させていただきます。同じ地域に存在しているのですが、病院や施設は若年の方との関わりがあまりなく、病院としてどういう食事を提供してどのような食育をしているのか、どういう風に関わっているのかを知っていただく良い機会をいただいていると思っています。今年は多職種連携や家で簡単にできる料理などの紹介もいれる予定です。

秋田委員長

ありがとうございます。それでは大西委員にもお伺いします。毎年ご協力いただいております、本所歯科医師会としての展示をお考えかと思いますがいかがでしょうか。

大西委員

本所歯科医師会は去年と同じポスターの展示になります。中身を変更したいのですが中々上手く進んでなくて、今年度の展示は同じですが来年度に向けて新たに中身変えていこうと思っています。歯と食育についての展示をしていきます。また来年以降ご協力できたらと思っています。

秋田委員長

ありがとうございます。それでは次に大久保委員、向島歯科医師会として毎年展示をされているかと思いますが、いかがでしょうか。

大久保委員

歯科医師会で行った介護予防事業について、口腔ケア講習会の展示をしております。また、今年も同じような内容でパネル展示をしたいと思っています。

秋田委員長

ありがとうございます。前田委員も展示のご協力いただいておりますが、いかがでしょうか。

前田委員

食支援団体の紹介がありますが、主にどのような子ども食堂が墨田区にあるのかというところを展示でお知らせしていきます。

秋田委員長

ありがとうございます。それでは本多委員、すみだ青空市ヤッチャバとしての企画を色々お考えということで、お話いただければと思います。

本多委員

6月に限らず明日も開催して毎週開催していく中ではありますが、6月14日は地域の飲食店と連携をさせていただき、通常朝市は14時～15時ぐらいで閉めまして、その後は区役所でご後援いただく形で、ヤッチャバの食材を飲食店でアレンジしていただいて食べられるような機会というのを夜市という名前で、19時～20時までで、大体19時ぐらいには完売してしましますが、いつもの場所でワイワイとやっております。そして21日は、通常通り開催しています。

秋田委員長

ありがとうございました。それでは原副委員長、お伺いします。千葉大学としてお考えありましたらお願いいたします。

原副委員長

千葉大学の墨田サテライトキャンパス4年目になります。初年度の頃からこうした取組みを行っていて、食育フェスに参加させていただいています。蜂蜜の方は、三輪先生が園芸の先生で、本当の専門は果樹の専門で、緑地を広げていくうえでは生態系の維持が大事で、生態系の中で蜂蜜（虫）という存在があってこそ緑が広がっていくということで蜜蜂の研究をやってらっしゃいます。墨田サテライトキャンパスの屋上に4箱ぐらいの巣箱があって蜂を飼っておりまして、キャンパスの近くにいろんな花が咲き始めて、身近に咲いている花が蜜蜂1匹でほんの数量の蜜しか取れないのですが、それが集まるとみんながこれだけ食べられるという命と食の連鎖みたいなことを体験できるよう、蜂蜜を搾って食べる取組みをしようとしております。

もう一つのグリーンズは、浜野製作所の名前も出ておりますが、浜野製作所で作った植物工場のキットがあり、浜野製作所の中でも植物を育てて職員の福利厚生として使っていたりなど、そこで育てたレタスをすぐ近くのサークル活動として使っていただくこともやっておりまして、小さいながらも町の中の農がある暮らしことを実現しようとしていました。それを週1回千葉大学の中でもグリーンズという活動でやっていますが、それが中々こじんまりとやっている状況なため、こうした機会を使ってより多くの区民の方に体験していただけるような取組みにしようとしております。

秋田委員長

ありがとうございました。今各委員さんから食育フェスに参画をしてくださっているとのことでお話をいただきましたが、食育フェス全体を通して何かご意見のある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

佐伯委員

「食育フェス2025」ということで、かなりの年月をやってきていますが、中身を見るとそんなに新しいものはないというか、2015年の食育推進全国大会 in すみだ開催以降はそんなに大きく変化はしていないという状況が今まで続いているというところで、食育フェスをやるための事柄や展示と見受けられてしまう。開催日について、庁内でやることで土曜日・日曜日の来場者がほとんど来ない状況です。すみだ食育 good ネットとして、食育リーダーさんとお手伝いすることもあり、やはり来場者数がないとモチベーションも下がり、精神的な負担がかなりかかってしまうということで、できれば水曜日～金曜日の展示もしくは土曜日・日曜日に何か仕掛けを作ってしっかりと集客をできるようにしてから開催した方が良いと感じました。出展者さんも例えば休みの日に自分達が出展している展示を見に来た時に、全く集客のない姿を見ると、来年出展してどうなのかと考えかねないと感じたため発言させていただきました。

秋田委員長

ご意見ありがとうございました。それではここまで皆様にご意見をいただきましたので、まず今年の「すみだ食育フェス2025」について本日事務局から説明がありましたプログラムについてご承認をいただきたいと思います。かつ、その際に今後の食育フェスの取組みにつきまして、今、佐伯委員からご提案がありましたような内容につきましても事務局でご検討を進めていただくということを含んだうえでのご承認ということをお願いしたいと思います。それでは委員の皆様、この件につきましてご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

全員挙手ということで、事務局の方では食育フェスの準備を進めていただき、またそれぞれ関わりをいただいている委員の皆様にはご協力をぜひお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次の議事のこども商店街について、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

それではこども商店街について説明させていただきます。資料5をご覧ください。こども商店街につきましては、第10回食育推進全国大会 in すみだ2015からスタートしたレガシーのモデルと聞いております。中身としましては、全児童館とコミュニティ会館、合わせて14館ありますが、区内の店舗、近隣の店舗の方々にもご協力をいただきながら、まず子どもたちが事前学習で店主の想いや商品へのこだわりなどを理解した上で、商品紹介のポップ等を作成、準備をし販売を行う。2015年から続けてこられたイベントです。コロナで中断したり、PR動画の制作を取り入れて行うというような形を経て、令和5年度には1月から3月頃にかけて実施し徐々に復活という形になっております。

今年度も前回の食育推進会議の時に令和7年度の予定ということで、6月28日、29日にやりますとご報告をさせていただいております。それを受けて私自身が、4月に児童館館長会にお伺いし、説明をさせていただきました。多くの児童館の館長さんから今年の6月に実施するのは厳しいのではないかとご意見をいただきました。私の方で改めて調査をしましたところ、児童館、コミュニティ会館14館あるうち、半分以上はそのタイミングではできないとご回答をいただきました。また協力店舗のあてがないという回答も見られました。このイベントは児童館、コミュニティ会館の協力なしでは実施しえないイベントになっております。また別の話で、すでに年間スケジュールが決まってしまうとお話もお聞きしており、非常に厳しい状況にあるというのが現状であります。以上です。

#### 秋田委員長

ありがとうございました。事務局からご説明がありましたように、食育推進全国大会のレガシーとして、こども商店街という取り組みが継続はしていたが、コロナがあり関係者の協働という体制が崩れていってしまったという中で、なんとか復活をしようということで、動画制作を交えながらの実施という苦肉の策の取り組みをされた時期があり、そこからまた再度、関係者の協働による取り組みを進めようとしたが、実際は一度関係性が薄れてしまったところで、取り組みを再開するところでは、少し暗礁に乗り上げてしまったというようなお話かと思います。実際には令和6年度の時に2回ほど、こども商店街のあり方について検討会が行われましたが、その結果を受けた、調整がうまく進まなかった状況で現担当に引き継がれて、児童館館長会では、6月29日開催を4月の段階で言われても実施は難しいのではないかとというような経過があったということです。委員の皆様からお知恵、ご意見をいただいて、こども商店街についての今後の展開について、検討させていただきたいと思います。最初にお伺いしたいのですが、田口委員はこれまでも地域で色々活動されて、教育分野では青少年育成委員会を中心にしながら、取り組みをされています。このような状況の中でご意見がありましたらお願いいたします。

#### 田口委員

こども商店街なのですが、実は私は青少年育成委員会というところに所属していますが、育成委員会というのは中学校単位でありまして、墨田区内に中学校が10校ありますが、10

の育成委員会があります。そこで毎年全部の育成委員会ではないですが、いわゆるフェスティバルみたいなことをやっています、そこで昔遊びだとか、露店など色々な販売をしたり、やっている育成委員会は結構あります。児童館にやっていただくのが非常に難しいような状況と、一定的に難しいというお話でしたが、育成委員会で中学校と協力してやっているものが、これから準備をしていくようなところがほとんどのため、そこは中学生が関わっているところが多いですが、小学校のPTAも一緒になっているようなところもありますから、場合によってはそちらに申し出をしてこども商店街ということではありませんが、子どもたちもそれに経験させるということも可能だと思います。もしよろしければ7月5日に育成委員会の連絡協議会という総会があり、そこで各地区の育成委員会にこども商店街というのが食育でやられているので、場合によっては協力してもらえないだろうかということを申し上げても良いかなと思っていますので、ご検討いただきたいと思います。

秋田委員長

ご意見ありがとうございました。田口委員が活動されている場があるので、7月5日にご相談してはどうかということかと思いますが、事務局としては、その児童館にもお声かけをしてきた経過もあるので、そこを含めて、7月5日にお伺いするかどうかについてはご検討をお願いしたいと思います。それでは、このこども商店街につきましては、全面的にすみだ青空市ヤッチャバで場を提供されてきた経過もありますので、本多委員はどう思われますでしょうか。

本多委員

個人的に見えている世界だけの話をすると、段取りだけの問題だったのかなという気はしています。ヤッチャバは先ほど夜市の話もさせていただいたのですが、飲食店であったり、昨年ですと錦糸町あたりの金属工芸の方に店出いただいたりと、場所があって接点がある事業者さんの方がいらっしゃって、今回もやりますけど、子ども向けの企画っていうのも割とご好評いただけて、もちろんヤッチャバとして児童館との接点を持っているので、こういったことをやること自体はそこまで難しくはないのかなと思うのですが、やはり話の持って行き方ですとか、その企画がコロナを経て、曖昧なまま話を持って行ってしまった部分が少なからずあるのではないかと色々お聞きして感じているところです。田口委員のご指摘ももちろんありだと思いますし、ヤッチャバとしても受け入れることができると思いますし、段取りを踏まえれば、本来やりたかったことっていうのはできると思います。ただ、本来何がやりたかったかっていうところにしっかり立ち戻って企画を持って、しかるべき人に相談していくっていうことが、一番大事なのかなと思っています。

秋田委員長

ありがとうございました。場と段取りというところがキーワードとしてあったと思いますが、昨年、検討会を2回、健康推進課の主催で行った際に参加させていただいた時に、佐伯委員がその会議にも参加をされたと思いますが、佐伯委員からはいかがでしょうか。

佐伯委員

昨年、あの会議に結構忙しいタイミングだったのですが出て、色々その場では提案させていただきました。基本的に商店とのマッチングっていうところに関しては、私も所属している、墨田区商店街連合会、それと産業観光部に問い合わせ、ある程度店舗を紹介してもらえれば、マッチングは可能じゃないかなというところはすごく感じて、その場ではそういう提案をさせていただきました。そもそもの話、こども商店街ってなんだろうって、先ほど本多委員がおっしゃったように、基本

的には商店街と地域の子どもたち、それから商店街がマッチして持続的な関係性を持っていくところだと思うのですが、コロナもあったせいか、そもそもその構造の部分で、子どもたちがお店に行ってポップを作って販売するってところのことをいじってしまった、動画制作をやってしまったところが多分大きな問題だったのではないかと。そこで児童館もやっぱり足踏みをしてしまった部分があるのではないかなと感じています。運用の方でうまくいけばいいのですが、やっぱり構造を変えてしまったところが一番大きな問題だったのかと思います。あとは今年度の実施が今の状況では未定で、非常に残念に感じて、何を目的でどうやっていくのかということ、もう一度改めて考え直してもいいタイミングなのかと感じております。以上です。

秋田委員長

ありがとうございました。今日はご欠席の委員の方にも、事務局としては事前ヒアリングをされているということで何かご意見いただいていたらご紹介いただけますでしょうか。

事務局

ご報告します。本日ご欠席の平田委員から、最初から見直しをしてもいいのではないかとご意見を、河上委員からは、コロナで中断した事業がなし崩し的に再開してしまったので、コロナ後の新しい食育を提示していかないといけないのではないかとご意見を頂戴しました。

秋田委員長

ありがとうございました。今ご意見いただいて上がっている中には、やはりもう一度こども商店街自体、根本的な見直しをしてはどうかということに重なっていらっしゃるかと思いますが、原副委員長は、いかがでしょうか。

原副委員長

最初の説明でレガシーというような話もありましたし、本質的なところでは誰も反対しているようなことでもないわけで、コロナという中で、苦肉の策でなんとかつないできたというのが、それも意味レガシーを作ってきたということだと思いますので、ただ、その時の状態のままやり続けるということ自体は、やっぱり再考すべきことであったというのが、今すごく見えてきたということだと思います。それらのことを大事に考えると、見直しをしつつ、今の状況にあった最適な方法は何かというのを丁寧に考えて、拙速にやってしまうことで、今後、逆に身動きが取れなくなってしまうということ避けるってことが、今一番いいのかという気もしますが、いかがでしょうか。

秋田委員長

ありがとうございました。他の委員で何かご意見ございましたらお願いしたいと思います。前田委員、何かありましたらお願いいたします。

前田委員

私、委員になって何年かで、前のこども商店街のことがあまりよくわかってはいなくて、今、お話を聞いただけの感想になりますが、目的がずれていっているというお話もありましたが、社会情勢も変わっているので、目的が変わってもよいとは思いますが、ただちゃんと目的を立てないと、いろんなところによれていくのかなという気がするので、もう一度、こども商店街は何を目的に、子どもたちにどういうことを経験させたいのかということ、皆さんの認識が一致した段階で実施されたらいいのではないかとと思います。

秋田委員長

ありがとうございました。

今の各委員のご意見をお伺いして、総合的に、根本的に今年度中に見直しをしていく上での方策を検討していくということで、今日のここでの議事としては、ご承認をいただくということで進めていきたいと思っております。その中で、今、委員からいただいた場の提供、それから段取りのこと、お店とのマッチングというところ、手法としてのリアル体験なのか、動画制作なのかということも踏まえて、その方策を検討する上での検討事項として押さえていただき進めていくという、この考え方にご承認いただける委員の方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

ありがとうございます。それでは全員の委員から挙手をいただきましたので、これにてこども商店街の事業の方向性を確定させていただきたいと思っております。

それでは次にもう一つ重要な議事になりますが、令和7年度の「定性的な評価」の検討について、事務局からご説明をいただき、各委員からご意見を頂戴したいと思いますので、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

それでは資料6 - と6 - をご覧ください。まず令和7年度の「定性的な評価」の検討についてです。昨年度の検討結果で、3回ワークショップを行いまして、プロトタイプの仮説として事務局案を作成しました。それがこちら資料6 - になっております。それを基にしまして、今年度の「定性的な評価」の検討ということで、墨田区食育推進計画評価検討会議を設置し、昨年度の結果を踏まえて独自モデルの方向性や作成方法の検討を行い、独自モデルを作成すると考えております。今年度のスケジュール案としましては、7月に検討会を設置しまして、8月～9月に第1回、第2回会議を開催して、9月から11月にかけて「定性的な評価」の素材の抽出、検討を行いまして、12月に第3回の評価検討会議を開催して、今年度の2月に第2回すみだ食育推進会議で検討結果の報告、承認を得たいと思っております。複数年の計画として来年度に向けたスケジュール案で、昨年度このような形でプロトタイプの仮説を作成し、今年度はそれを用いた実践事例の評価を通して、ブラッシュアップを図り、独自評価モデルを作成するという予定になっております。令和8年度、計画の改定の素地という形になりますが、独自評価モデルを用いた実践事例の評価と取り組みという形で進めていきたいと思っております。以上です。

秋田委員長

ありがとうございます。こちら墨田区食育推進計画評価検討会議ですが、こちらの会議の委員につきましては、今回の委員の委嘱期間の中で、昨年度3名の委員の方をお願いしております。部会長の原副委員長、本多委員、今日ご欠席の米倉委員をお願いをしているところですが、この「定性的な評価」につきましては、昨年度も苦戦をしながら進めてきたところもございます。令和7年度につきましては、今、事務局からご説明ございましたが、まず本多委員からお考えがございましたらご意見をお願いいたします。

本多委員

資料6 - だけだと皆さんわかりづらいところもあると思えますけど、リード文のところでも、3つの評価指標と6つの評価項目とあって、この辺の仕組みからまだ議論している段階で、この資

料にも6つの評価項目は載っていないです。会議でも議論しているのが、「すみだの食育」というのがいろいろ思い思い、各地域で様々な活動が行われてきたというのが一つ。「すみだの食育」活動の中の大きなポイントとしてあるのかと思いつつ、それぞれが独立していて、情報共有など私もヤッチャバを見て他が何をやっているのかって結構知らなかったことがありました。ただ俯瞰して見て議論を進めていくと、一人一人がやってみたいということを食育という枠組みの中で、地域で活動して実現して取り組んできたことが、2015年を基点にするとこの10年の中で積み重なってきているのかと感じているところです。これが仕組みの中でしっかりつくり上げられて、次世代をサポートできるようなことを評価して、すみだならではの食育というのをさらに盛り上げていくということが、趣旨としてあるのかと感じています。そのモデルをつくるとなった時には、行政の中でロジックモデルというそういった評価をする仕組み、構造化するというようなものとかは、各種計画の中で議論されてきているとは思いますが、すみだの食育、歴史もあって、いろいろな活動があってどう行動化するのかというのは、まだ見えてないところだというのが現時点での認識です。ただ「ひと」とか「まち」とか「仕組み」、こういったキーワードになってくるだろうというのが見えてきている中で事務局の仮説という資料が出てきて、今後それをどうよりシステムチックにしながら、一人一人の思いみたいなのをつくり上げて、人々の食育推進計画の枠組みの中で、区民の活動をより活発にしていこうかというのはまだ見えてないのかと思います。

秋田委員長

ありがとうございました。原副委員長もこちらの部会長をしていただいておりますが、かなりお悩みになりながらだと思いました。いかがでしょうか。

原副委員長

構造化していくことで、それがより共有されて多くの人が同じように中身を深めて、成長していける取り組みにしていけるかがポイントかと思っています。例えば定性ではなく、定量の方は数字で表されるので数字ですぐわかると思いますが、それはわかりやすい範囲でとどまってしまう。ただ墨田区の取り組みというのはよくわからないが、すごく魅力があるところだと思うのでみんながそういう魅力を持ってやりたくなるような動機になる評価軸が出てくるとよいと思います。評価されて萎縮してしまい自分はダメだというのではなく、そこに関わることでもっとこうした方がよいなど、お互い学び合って、成長していけるようなモデルができていけるとよいと思っております。

秋田委員長

ありがとうございました。実際にはこの定性評価検討会議の中で、原副委員長を含めて米倉委員も入っての検討にはなっておりますが、かなりこれをつくっていくご苦労を私も会議を傍聴させていただいて感じております。委員の皆さんからこの点について応援的なご発言をいただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

大久保委員

「定量的な評価」は何をいつやったとかですが、「定性的な評価」という言葉自体がすごく難しく、「定性的な評価」というのは要するにポリシーというか、墨田区の食育活動も最初からこういう活動はなかったわけですから、経験といろんなことを積んで魂を持って取り組んできたものだと思います。それを評価するのは非常に難しいですが、その指針とか魂本体がある程度評価してわかれば、次のいんな方につなげられると感じました。ただやる事業だけではなく、何のためにやるかというのをわかりやすく評価して、それを示していただくと、いんな人も「よし！」という感じに

なるのではないかと思いました。

秋田委員長

ありがとうございました。「定性的な評価」は今年度も検討を進めて、その結果が令和8年度の計画策定のための作業年につながり、かつ、令和9年の初旬に新たな計画が策定されていくところにつながっていく話かと思えます。過去の食育推進会議で、田口委員からご意見いただいた中で、この評価軸をつくるのが物差しという表現をした時もありますが、物差しだと私たちの物差しで活動を測る、もしくは人の取り組みを測ることで、評価が分かれていく、良し悪しみたいになってしまうことはどうなのかということをお願いした経過もありました。原副委員長からこの「定性的な評価」については、それをつくることによって、よりよく目指していくものとしてモデルになっていけばよいのではないかというご意見をいただいたかと思えます。それでは委員の皆様から他にご意見があれば伺いをしてから、ご承認をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

この取り組みは他の自治体ではまずこの「定性的な評価」がないという状況の中で、墨田区がそれを果敢に取り組もうという、稀な取り組みだと感じております。「定性的な評価」の独自モデルを作成するという一つの取り組み、目標もありますが、と同時にそのプロセス自体を独自に進めていかないとならないという、実は二重のチャレンジを今後進めていくということになります。まずこうした状況の中で「定性的な評価」を令和7年度も更に継続し、かつそれを今後の墨田区食育推進計画の策定に生かしていくということで、皆様にご承認をいただきたいと思えます。ご承認いただける委員は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

挙手ありがとうございました。

最後に、その他ということで議事を進めていきたいと思えます。委員の皆様から、その他ということで何かご意見がございましたら頂戴したいと思っております。いかがでしょうか。

田口委員

食の安全についてご意見を聞かせていただきたいのですが、学校給食で心配な面がありまして、大きな問題にはなっていないが、その直前で止まっているようなものが結構あるようで、校長先生方からお聞きしたことです。

ある小学校では給食の中にやや大きめな異物混入がありました。児童がそれに気付き、担任に申し出て大事には至りませんでした。今、食物アレルギーの子どもがいるのですが、例えば卵だったら卵を栄養士が気付かずにしてそれを作って食べさせてしまい、その子どもが家へ帰ってこういうものが出たというのを話したら、その保護者が学校側にこれはどういうことだというようなことを言ってきたそうです。それが事故にはならなかったのですが、場合によっては命に関わる問題になってくのではないかとというようなことを教員から言われました。

それで、この会議の場は教育委員会ではなく健康推進課ではありますが、皆さんにもそういう細かいことが数えきれないほど起こっているということも、参考として出させていただきました。少し検討していただくとありがたいと思えます。

秋田委員長

ありがとうございました。今日はこの会議の議事のところでお話をいただいております。実際には

教育委員会に情報提供をしていただいてご対応いただくということにはなりますが、須藤次長からどのような形でご対応されるかを教えていただいて、そのご対応についてこの会議でご承認させていただく形をとらせていただいてもよろしいでしょうか。

須藤委員

ご意見はこの場の共有かと思いますが、一般的に事故はヒヤリハットも含めて多少あるかと思いますが、その異物混入についてはあってはならないことで、事業者にはきちんと指導を入れていくことになると思います。あとアレルギーのお子さんですが、基本的には事前に栄養士が入学前にヒアリングして、除去食とか代替食で対応するのは基本で、それでも想定外のことがあると思うのでそういうのも含め注意喚起はしていますので、共有はしているところです。ご指摘のような点は、全くないとは言いきれませんが、ヒヤリハット、事故の撲滅については区としてやっていくところだとは思いますが、ご指摘ありがとうございます。

高橋委員

学校ではなく、病院で給食をつくっている栄養士です。異物混入やアレルギー対応に関する事故など完全にゼロというのはなかなか難しく、逆にそれだけヒヤリハットの報告をちゃんと上げられるような体制ができたのではないかと聞いて思いました。今までだったら現場でどうにかしていたことが、些細なことでもちゃんと報告をあげる時代が来たので、それで件数が増えているように見えると感じるところもありました。

こちらでもゼロにしたいと思いつつながら給食を作っているの、意見を言わせていただきました。

秋田委員長

ありがとうございました。佐伯委員にお伺いしたいのですが、食品事業者のお立場として、食品衛生協会の関係もあり、それから過去にアレルギー事故にも客観的に関わられたこともあると思いますが、何かコメントいただければと思います。

佐伯委員

食品衛生協会としては、異物混入や食中毒防止は啓蒙しつつも、学校給食などはしっかりやっているとありますが、事業者の場合は意識によってかなり違いがあるもので、その部分をHACCPを通じて管理していくところでやっています。異物混入にしてもアレルギーにしても、防ぐのは難しいと思いますが、ただどこまでできて、どれ以上はできないかということは、明記する必要があります。自分はパンを作っていて、卵の商品と卵のない商品と、両方同じ工場で作っているのだから完全にゼロかと言うとゼロではないです。ただ使っていないものは原材料の中には入っていないとお伝えしています。そういう部分を理解していただきながら、なるべく事故を防ぐというかそういうところをやっていけばよいのかと思います。

秋田委員長

ありがとうございました。ヒューマンエラーはなくすことは難しいですが、ヒューマンエラーが出た時にそれをどうするかというところをどう考えていくかというお話に変わってきたかと思います。大西委員、ヒューマンエラーに関して何かお考えがございませうか。

大西委員

ヒューマンエラーは絶対起こり得ると思うし、今、世の中自体がギスギスしてうるさい時代になっているので、その辺は対策練っても細かいことを言う人は切りがないので、やれる限りのことをやって、起きた時はちゃんと対応して、それをヒヤリハットの事案として出しておいて統計取るくら

いしできないのではないかなと思うので、やっぱり多少は起きてしまうと思います。だから食育を通じて「給食を作るというのは大変なんだよ」と教えることも大事だし、「これぐらいのことはあるよね」、「こんな小さい破片が入ることはあるよね」、と教えてしまってもよいのかもしれないし、最終的には子どもがやっぱりそうやって人のことをいたわる気持ちであるとか、大変な思いして給食作ってくれているのだと、こんなに牛は大変な思いして育ててくれて、その命を奪ってお腹に入れているんだ、しっかり残さず食べなきゃというところにいければ、みんなが笑顔で朗らかな世の中になるのかなと思うので、そっちの方向にうまく導けて子どもたちの心のケアもできたらなと思います。

田口委員

学校の校長先生のお話では、ヒューマンエラーというのはあり仕方ないことだが、あったらきちんと報告してほしいということが学校側の要望だと思います。

秋田委員長

ありがとうございます。田口委員からご指摘があったことにつきましては、そういったことはあるということの前提の中で、ヒューマンエラーをどのように理解し、仕組みの中でどうやって解決をしていくのかというところで、今後、教育委員会にご説明をしていただく時に、そういった総合的な視点でお伝えをいただくというところで、ご承認をいただくということによろしいでしょうか。

田口委員

はい。

秋田委員長

では、事務局を通じて、教育委員会にお話を通していただくようになるかと思いますが、その時は田口委員もおっしゃったように、指摘だけではなくて、食育という考え方に基づいて総合的な取り組みをお願いしたいということでご承認をしていくということでお伝えいただければと思います。ではご承認いただける委員の方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

ありがとうございました。それでは事務局から本日ご欠席の委員の方から何かご意見等伺っていることがございましたら、お願いいたします。

事務局

本日ご欠席の委員からのご意見について説明させていただきます。河上委員から、昨年度の災害時食支援ネットワーク検討会において、アクションカードを行いました。想定通りにやれなかったというお話でした。今年度は在宅がテーマになるというお話ですが、災害時の検討は模擬的にやっていかなければいけないというお話を頂戴しました。以上です。

秋田委員長

ありがとうございました。災害時食支援ネットワーク検討会自体も、このすみだ食育推進会議の専門部会として位置づいておりまして、確か平成24年度からこの検討会を進めていて、かなりのご検討が進んではいますが、なかなか模擬的、実践的な取り組みまではたどり着くのが難しく、時間もかかっていらっしゃると思います。模擬的にというところに移行することを考えたときに、前回、前田委員から第2回すみだ食育推進会議の時に社会福祉協議会の職員の方は輪

島の災害ボランティアセンターに行かれ運営に特化した形で派遣されたというお話がありました。今の模擬的にというところをお伺いした時に、どのようにお考えになりますか。

前田委員

どういふシミュレーションで模擬的にやるかがわからないので、難しいと思いますが、社会福祉協議会の災害ボランティアセンターというものを立ち上げた時の運営は、皆さんが困っているニーズを拾い上げて、ボランティアに来てくれた人をマッチングさせるということです。だからもしその食支援で何か困っている人がいたら、ボランティアでそういうことが対応できる人が来てくれていれば、社会福祉協議会としてはマッチングさせていくことなので、例えば災害時の中でどれだけそういうことができる人がボランティアで来るのかとか、まだ想定は全然できてないですけど、大きな仕組みとしてみたら社会福祉協議会が何かをやるというよりも、マッチング作業していますという形です。

秋田委員長

ありがとうございます。今までは災害時食支援ネットワーク検討会の中で、色々ご議論をされてきましたけれども、実際には多様な要望をいかに解決していくか、解決をするためのマッチングをどうするか、がどれだけの視野でその問題を拾えるかというところが、大きい役割ではないかと感じます。今、災害時食支援ネットワークの検討会の中には、社会福祉協議会のお立場では、職員の方が委員ということでは関わられてはいないのですが、今年度以降、その災害時食支援ネットワークの検討会の中に今おっしゃっていただいたマッチングという重要な役割の視点でお関わりいただける可能性というのはありますか。

前田委員

もう少し内容がよくわからないと、何とも言えないと思います。どういう立場で関わっていくかだとか、その今やっている、立ち上げている検討会が、何を最終的な目的にしているかもわかってないので、今、職員を出しますというのは難しいので、そういうことを考えるならば、もう少し中身を教えていただきたいと思います。

秋田委員長

はい。それでは災害時食支援ネットワーク検討会は、部会長を河上委員がされているかと思えますので、河上委員に、その模擬的というところで今日の結果を事務局からお伝えいただいて、また事務局から必要であれば前田委員に状況をお伝えして、災害時食支援ネットワーク検討会、これから今年度立ち上がっていくかと思えますので、そのあたりの調整をしていただいてより中身のある、実践的な災害時食支援ネットワーク検討会としての結果へとつなげていただければと思います。よろしく願いいたします。

本多委員

情報共有ですが、私は石川県の輪島市でカフェの経営に長く携わらせていただいていたので、そこが昨年、民間のボランティアセンター的な形でカフェの経営に関わっていました。私たち世代の友人メンバーが自主的に、そのままにマッチングの活動してきていました。そこから見えてくる課題というのもすごくあって、社会福祉協議会だからこそできることもあれば、一事業者というか、一若者たちだからこそできるマッチングというのもあって、そのマッチングにも種類があるし、今時ならではの、IT、ICTの活用もすごく生の課題が出てきていて、私もずっと支援まではいかないですけど、定期的に足を運ばせていただいて情報が入ってきているので、そういったところは墨田に活用できることはあると思いますし、必要に応じてそういったこともご紹介できればと思います。

秋田委員長

ありがとうございます。それではこのマッチングというところをポイントに加え、災害時食支援ネットワーク検討会をお考えいただき、今年度の事業の中でも、事務局より冒頭ご報告いただいておりますが、この検討会としては、そういう視点を加えて検討を進めていったらよいのではないかとということで、ご承認いただける委員の方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

ありがとうございました。では事務局よろしく願いいたします。その他に何かご欠席の委員からございましたでしょうか。

事務局

情報提供というところで、平田委員から子ども向けの食育も大事だということですが、大人向けの食育も重要だという話を頂戴しました。あと中学三年生の農業体験、漁業体験に関しまして、農業はまだ触れる機会があるということですが、なかなか漁業体験というのは難しいという話をいただきまして、オンラインでやれるような工夫がいいのではないかとのお話も頂戴しました。

秋田委員長

ありがとうございました。確かに漁業体験はより難しいかなと思っております。すみだ食育 good ネットの取組のご紹介になりますが、本日お配りいたしましたこの食育の芽第 2 1 号ですが、北海道芽室町とつながったことで、実は芽室町の大友牧場とオンラインで、つないで墨田児童会館の子どもたちが、画面越しになりますけれども、「牧場オンラインツアー」を体験しました。リアルな体験の方がより深く感動を得られますが、やるかやらないかといったら、やっぱりやったほうがよいという結果として取り組みました。その時ちょっと工夫したのが、例えば牛さんが食べている牧草 3 種類くらいあって、それを実際に送っていただいて、牧草の匂いを嗅いでみるとか、それからチーズに加工したものを送っていただいて、もちろんアレルギー対応をしっかりとした上で、アレルギーのないお子さんに試食をしてもらおうということも合わせて行いました。単に牧場をオンラインで見るというだけではなく、少しでも五感で感じるようなことを、プログラムの中に入れていくということで、取り組みをしました。オンラインを使った工夫というお話がありましたのでご紹介させていただきました。これからは、コロナがあったことを経て、リアル体験だけではなく、オンラインを使った取組も含めて、また SNS 等のこともあり、AI も相当にいろいろな場で使われ始めているということもありまして、これからの食育の様々な形というのが少し幅広で、今まで以上に進んでいくのかと感じました。

他には事務局でお聞きになっていることはないでしょうか。

事務局

以上です。

秋田委員長

ありがとうございました。本日会議を通して何かお感じになったこと、ご意見等ございましたら、全体を通してご意見等いただければと思いますが、いかがでしょうか。

本多委員

情報共有ですけど、今、ノドひきふねという、曳舟駅の UR がやられている交流スペースがあ

り、ノウドひきふねが主体になって、こどもカフェという取り組みをされてます。この取組はすみだ青空市ヤッチャバとしても協力させていただいており、概要はこどもカフェで買い出し・調理・サービス・会計を、全部体験できるという企画になっています。ヤッチャバでもお世話になっている向島のオーロラキッチンをされているカフェの方がサポートで入ってしまして、ノウドで子どもが集まってヤッチャバに買い出しに来て、カフェに戻って指導を受けながら調理するグループとフードをサーブするグループに分かれて、小学生がカフェの買い出しから提供・会計まで、お金の細かいところは大人がやりますが、体験できる取り組みはやられています。これが墨田区でやられているハロカルホリデーで体系としては子どもの体験格差みたいなプログラムの中にも位置づけられていて、そういう体験をするということと、事業者とヤッチャバと食に関わる時というのは、自走をしている取り組みもあると思います。これを参考にさせていただきながら、だからこそ児童館と区で組んで、こども商店街で、あの佐伯さんからもその商店街がその墨田の魅力であるということもあったかと思えます。なので、そういった部分がそのこどもカフェと差別化、必ずしもするべきとは思わないですけど、同じことを区がやるのかということもあると思うので、そういった事例も見ていただきながら、改めてその中身、本当に何をしたかったというのは検討いただけたらと思いました。

秋田委員長

ありがとうございました。情報提供というと、佐伯委員から商店街で何か企画を考えていらっしゃるかと伺いましたがいかがでしょうか。

佐伯委員

今年の商店街のイベントとしまして、今、会長をやらさせていただいている東あづま本通り会があって、そこで芽室町産のトウモロコシを使って、イベントを仕掛けたいというところで今動いております。芽室町の魅力創造課の渡辺さんにご相談したところ、ちょうど収穫時期の問題で、イベントの開催時期が8月31日で予定はしていますが、トウモロコシの最盛期が8月1日からお盆あけ20日ぐらいまでだということで、10日間トウモロコシを保たすことができないかどうかということで、今、その部分の回答を待っている状況です。これが上手くいきますと立花吾孺の森小学校のPTA会長と相談して、小学校も交えて町ぐるみでイベントができると考えています。さらに言えばなかなか出口がすみだまつりでしか見られなかった芽室町のものが、もう少し町の商店街にやってくるというところで広まるようにできるかということを検討しています。

もう一つ本多委員がおっしゃってた体験型ということで、かめぱんでは毎年夏休みにこどもパン教室を開催していて、約10名ぐらいの小学校低学年のお子さんにパンを作ってもらおうという活動をしております。昨年はすみだ食育 good ネットにもご協力いただいて、子どもたちの手洗いの方法とか手伝ってもらい非常に助かったこともありまして、そういう体験を通じて子どもたちがすごく笑顔になって、それを家に持って帰って、お父さん、お母さんに限られるかもしれないですけど、地域の人たちにそのものを売るとなった時に、自分たちが作ったものが売れるという大きな喜びに変わるのではないかなということで、ぜひ、こども商店街はしっかりと検討いただいて続けていただきたいと思っております。

秋田委員長

ありがとうございました。それでは今日の議事としては大きく3点ございました。「すみだ食育フェス2025」について、こども商店街について、それから令和7年度の「定性的な評価」の検討についてということで、すべて委員の皆様のご協力、ご理解によりご承認を頂戴いたしました。お

時間になりました。長時間たくさんのご意見を賜りましてありがとうございました。

**事務局**

ありがとうございました。次回の会議ですけれども、来年2月頃を予定しております。また日程調整させていただいた上で、皆様にはご連絡をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。最後に資料7で、皆様のお手元にご意見・質問シートを配布させていただいております。本日会議の中でご発言できなかったことにつきまして6月13日締め切りということで、何かご提案等があればこのシートを使っていただいて、メールまたはFAXで事務局の方に送っていただければと思っております。大変恐縮でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。それではこれもちまして、令和7年度第1回すみだ食育推進会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。